

COVID-19パンデミックと教育DX

2021年9月10日

株式会社デジタル・ナレッジ
代表取締役COO 吉田 自由児

名刺交換
こちらから

- Eight
- Sansan
- 名刺画像



弊社紹介

会社名	株式会社デジタル・ナレッジ
設立	1995年12月
代表	代表取締役社長 はが 弘明 代表取締役COO 吉田 自由児
従業員数	200名(派遣社員含む)
所在地	【本社】東京都台東区上野5-3-4 eラーニング・ラボ 秋葉原 【西日本支社】大阪府大阪市西区江戸堀1-12-8 【九州支店】福岡市博多区博多駅東2-5-19 【ウズベキスタン】タシケント(子会社JDU-LLC)
事業内容	eラーニングの開発、サービス提供



1995年12月20日

COVID-19パンデミックにより 教育・研修周辺で起きていること。

さまざまな教育シーンで起きていることを
自明なものも多いと思いますが、整理してみます。

(1)集合授業の実施困難

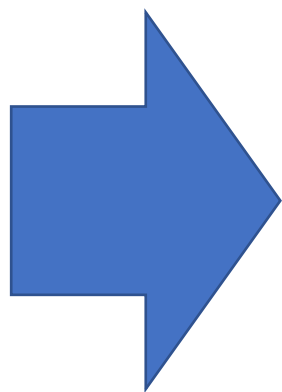
新型コロナウイルスの影響で集合授業が困難に。

小中高	✕ → △ ○	現在は多くの学校で平常に戻るも、一部活動制限、オンライン併用も。
大学	✕ → ✕ △	オンライン併用。 入試にも一部CBT利用。
学習塾・資格スクール	✕ → △ ○	多くがコロナ前に戻るが、再度の非常事態宣言を受けオンラインを本格展開する傾向も。
フィジカルトレーニング	✕ → △	ジムなどのフィジカルな活動が行われている施設はやや厳しい状態だが回復基調、オンラインも。
社内研修	✕ → △ ○	外部の集合研修は避けられ、オンライン化され提供するのが常態化。社内研修でも集合スタイルの実施は困難でオンラインへ移行。
研修会社	✕ → △ ◎	講師派遣によるリアルな研修は実施困難。オンライン授業が一般化、新たな顧客獲得の会社も。

(2)オンライン化の加速への対応

これまで学校やスクールに通って授業を受けていた受講者が、今回のコロナ禍を契機にオンラインの存在を知り、実際に使って効果や利便性を実感。

あえてオンラインを選択する層が生まれている。

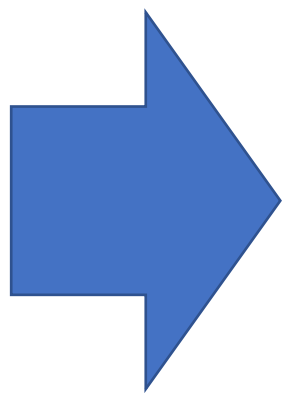


教育サービスを提供している既存の企業・学校は、この新たなオンライン志向の層を取り込むため、オンラインによる提供を推進。

差別化要因ではなく、オンラインがデファクトスタンダードに。

昨年春先からの一斉自粛、度重なる緊急事態宣言を経験し、今後同様のことが起こりうることを懸念。

現状は緊急対応でしのいでいるが、今後の備えをしておきたい。



今すぐオンラインによる教育提供は考えていないが、いざというときに学びを止めない仕組みとして、オンライン環境を整備しておきたい。在宅への授業ライブ配信など。

(4)オンラインと集合研修の併用：ハイフレックス

従来のオンラインと集合研修の併用： **学習効果/効率性を高めるため**

- ・反転授業・・・オンラインで予習し集合研修に臨む。
- ・ブレンディング・・・集合研修とオンラインを併用。ハイブリッドとも。



コロナ禍で注目されるオンラインと集合研修の併用： **必要に迫られて**

- ・ハイフレックス・・・同じ授業にオンライン参加と教室参加が存在。
- Hybrid-Flexible

今後、学校や各種スクールで、教室受講とオンライン配信受講を選択できるハイフレックスが主流になる可能性も。

(5)今すぐ始めたい

とにかくオンライン授業を開始したい！

とり急ぎ導入が進む。



zoomがあれば、手軽に、オンライン授業も、受講者同士のグループミーティング（ブレイクアウトセッション）も行える。

Cisco WebexやMicrosoft teams、Google Meetを利用することも。

(6)映像撮影の機材・スキルの向上

多くの人がzoomなどによる配信を行う中、一部の教員や担当者の中で、機材のレベルや撮影のノウハウが飛躍的に高まる。

カメラ：外付けUSBカメラ / 一眼レフ

スイッチャ：Blackmagic ATEM Mini / Mini pro

キャプチャ：HDMI→USBキャプチャユニット

マイク：外付けマイク(コンデンサーマイク)

照明：ライティング機材

その他：グリーンバック

その他ソフト：Snap Camera / mmhmm

ちょっとした
YouTuberばり
の機材

受講者側の環境問題

- ・受講者1人1台にマシン
- ・自宅ネットワーク整備(WIFI/SIM)

企業の場合

- ・マシン環境支給
- ・VPN用意
- ・ネット費用の一部会社負担

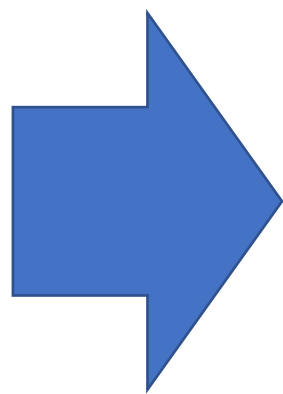
公教育の場合

- ・マシン貸与
- ・モバイルWIFI貸与

1人に1台学習用PCとネットワークを提供する文科省のGIGAスクール構想が加速

(8)社内資料/業務マニュアルを迅速に伝達

**急激な環境変化に対応すべく、業務マニュアルを整備・更新。
(市販教材ではなく、自社独自教材)**

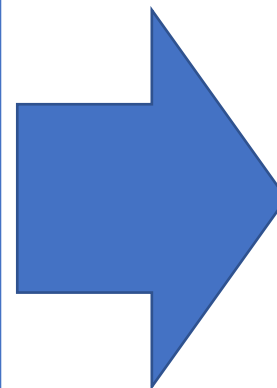


**在宅含めた様々な方々に
速やかに、漏れなく、わかりやすく
伝達するのに
eラーニングは適している。**

模擬試験・資格試験・定期試験の会場試験が開催できない。

オンライン試験の問題点

- ・なりすまし対応、本人確認
- ・カンニングなどの不正行為
- ・環境の整備(PCとネット必要)
- ・答案用紙と鉛筆の対応



これら問題をクリア
してオンライン試験
できるようにしなけ
れば試験が止まる。

**オンラインで授業提供しているもののの中には、
対面式より質が落ちると評価されてしまうものも。**

どうして質が悪いと評価されるのか？

- ・従来の対面教育を無理やりオンライン化して、ちぐはぐ
- ・使用機材や撮影方法で映像や音声のクオリティが低い
- ・受講者の反応や理解がわからず講師から一方通行
- ・授業しっぱなし、受講者からのフィードバックがない
- ・講師や受講者同士の対話が希薄
- ・数多くのシステムを併用しており利用が煩雑
- ・その場しのぎで取り合えず配信、長期的・相対的な視野が不足

自粛要請の初期から現在に至るまで ニーズは変化してきた

困った！
何とかして！

まずは
導入して
みよう

質を高める
には？

今後の事業計画に
繰り入れよう

緊急対応から、質が高く安定した
定常サービスを求める傾向へ。

(12)マインドの変化

これまで教育の1カテゴリに過ぎなかったeラーニング・Edtechが
メインストリームに。むしろこっちがスタンダード。

スマホ完結

オンラインが
デフォルト

学習するなら
オンラインでしょ？

Zoom会議が
デフォルト

多様な学び
ハイフレックス

デジタル化された知識
の利便性の実感

(13)弊社が感じる変化

変化の大きいポイント:

資料請求数↑ 案件規模→↓ 地方からの問合せ↑

一人あたり学習時間↑ 顧客当たり利用者数↑

当市場への進出企業↑ セグメント細分化↑

ここ1年ほどでニーズが高まった領域:

Zoom連携 オンライン試験 小規模導入 スキル確認

映像収録

LTI

LMS外のサードパーティによる学習ツールとの連携
LMSが管理する学習の幅の広がり。統合的な学習環境。
→対応ツールが増えることに期待 (vs API)

OpenBadge

今後のスタンダードになりうるか？ まだキャズム前の状態
→価値の創出、導入メリットのアピールに期待



ありがとうございました。

名刺交換
こちらから

- Eight
- Sansan
- 名刺画像

